

# 学校評価アンケート結果報告

平成 29 年 1 月  
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。さらなる教育の環境整備と質的向上、教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸甚です。

学校長 岩本信久

## 凡例と集計方法について

凡例：■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めて参ります。

## 9割超が、本校に入学させて良かった

H26年度	54%	39%	93%
H27年度	53%	39%	92%
H28年度	53%	40%	93%

「大阪高校に入学させて良かったか」という質問に対する肯定的な回答が占める割合は 9 割以上をキープしています。学年別では 1 年生 92%、2 年生 91%、3 年生 95%とどの学年でも高い評価です。総合満足度に与える影響の大きさを統計的に解析してみたところ、「学校行事」「部活動支援」「進路指導」「目的に向けて頑張る生徒の姿」の 4 つが大きな部分を占めていました。生徒一人ひとりが充実した日々を送る中でしっかりと学業との両立を図り、未来を拓いていける学校を目指し、教職員が一丸となってこれからも教育改善に取り組んで参ります。

## 未来を切り開いていく力を育みます

「学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか」という問いには、「学習指導や学力向上」を選ぶ保護者が最も多く 68%を占めました。7 割を超えていた昨年度に比べると減っていますが、未来を拓く力の核として最も期待を集めるのは当然です。生徒による授業評価アンケートでは、「授業を受けて学力や技能の向上を実感できる」との回答が過去最高の 87%

まで上昇しています。生徒の進路希望を実現させるだけでなく、卒業後も生涯に亘って続く学びの土台を築き得る授業を広く実践すべく今後も全校を挙げて授業改善に取り組みます。更なる充実を求める声で、2 番目に多かった「進路指導や就職支援」の 66%でした。3 位以下を大きく引き離しているのは昨年までと同様です。学校の教育リソースの配分に際しては、これら 2 点に集中的な投資を行います。なお、3 番目以下に並んだ項目のうち、「設備拡充や安全・衛生」は昨年度の 14%から 18%に増えています。校内の状況を改めて確認し、不備・不足がどこにあるか精緻に把握したうえで改善を進めてまいります。

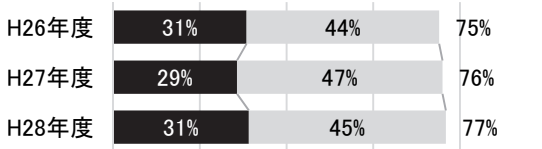
また、「子どもに獲得させたい資質は何か」とお尋ねし 2 つを選んでいただいたところ、選択率が 3 割を超えたのは、「将来を切り開いていく力」(47%)、「自主自立の姿勢」(35%)、「学力・知力」(35%)、「協調性・社会性」(31%) が上位に並びました。選択率に多少の変動がありますが順序は変わりません。来るべき教育改革(次期学習指導要領や高大接続改革)に向けて教育活動の再編を図る中、基本的な知識・技能の獲得に止まらず、思考力・判断力・表現力、協働性・多様性・主体性を着実に育める学校を目指します。

## 大高は、あったかい学校であり続けます

「本校の特徴は何か」という問いには、「生徒がいきいきと学習や部活に励んでいる学校」(43%)、「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」(32%) が最上位に並びました。本校のアイデンティティである“あったかい学校”と符合する結果と喜ばしく受け止めています。未来を切り開く力を身につける 3 年間、日々の学校生活の中で生徒一人ひとりが輝ける 3 年間をこれまで以上に力強く実現すべく、大阪高校は生徒と先生が一体となった学校であり続けます。

## 高まる期待のさらに一歩先を行く、 学習指導と進路指導の実現に向けて

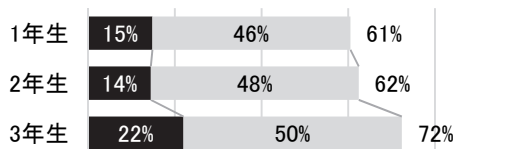
Q お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



わずかずつではあります、肯定的な回答が着実に増えてきています。まだ改善の余地は多分に残っており、学校としては引き続き改善を図る所存です。一般に中だるみが出やすい2年生では本校においても改善課題は大きく、この3年間は71%、76%、72%と前後しながら伸びを欠いています。どの学年にも「その時にしかできないこと」が必ずあります。日々の学習、部活動、学校行事を通じて、より明確な目的意識をもって取り組めるよう、また強い達成感を得られるよう、教育機会の整備を進めて参ります。

「進んで学校に通う意欲・目的の源泉は何か」を2つ選んで答えていただく質問では、「クラスでの友人とのふれあい」(49%)と「クラブ活動」(36%)が依然としてトップですが、これらを選ばず、「日々の授業」(21%)や「進路目標の実現」(24%)を挙げるケースも少なくありません。また、生徒自身の回答(一択)を見ると、「学習と進路」を挙げる生徒が昨年度より2ポイント以上増えており、生徒の行動目的には大きな変化が起きている様子も窺えます。

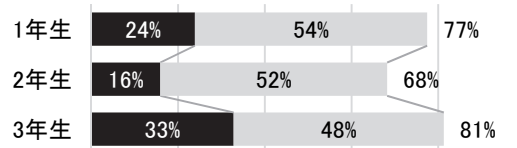
Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。



学校全体での肯定回答率は、昨年度と同じ65%に止まりました。グラフに示す通り、学年が上がるごとに評価も高まりますが、学習の成果は積み上げられていくものであり、2年生までの指導について、課外活動とのバランスをとりつつも、更なる改善が必要であるとの認識を新たにしました。高大接続改革など高校教育を取り巻く環境が大きく変化していく中、

本校においても協働的な学習、生徒が主体的に参加する学びへの転換にむけて研修・研究を重ねてきましたが、今後は取り組みをさらに加速させます。

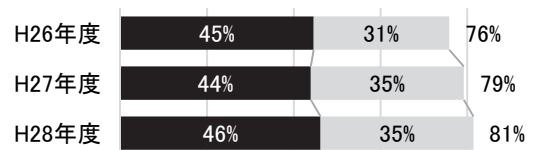
Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



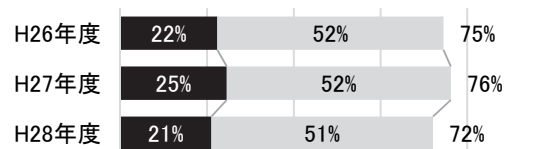
進路指導では、2年生の指導に改善が必要であることがはっきりしました。進路指導には、進路希望を作る段階とその実現を支える段階とがあり、本校においては前段の指導に抜本的な見直しと更なる充実が必要と考えます。シンギュラリティの到来が予測され、多くの職業が人工知能に取って代わられる時代を迎える中で、正しい判断と選択を重ねて豊かな未来を拓いていける生徒を育てたいと思います。なお、本校では、時代の変化を見据え、新たに「未来へ、世界へひらく自己の確立」という教育目標を立て、日々の教育活動の改善に取り組んで参りました。今後の取り組みや進展の様子は、保護者会や学校HPでも積極的に情報を発信いたします。

## 生徒一人ひとりが輝ける毎日のために

Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。



Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



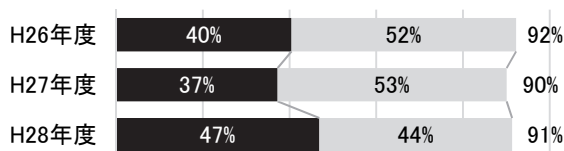
部活動顧問の指導に対しては肯定的な回答が徐々に増えて8割を超えるところまで来ました。一方、学校行事では評価が後退しました。行事自体の改善に加え、個々の行事に込めた教育的な意図をきちんと伝えていく必要があるとの認識を新たにしました。

課外活動は、生徒が充実した学校生活を送るために欠かせないだけでなく、好ましい資質を獲得するための教育機会です。「教室では経験できない異年齢の交流と関係構築」、「目標達成に向けた協働とそこに見出す喜び」など、教室での学びを補完し、教育目的の達成に欠かせない要素を提供するのが課外活動です。これまで以上の充実を図って参ります。特に学校行事は、大高の文化を作る幹であると位置づけております。伝統を尊重しつつ、新しい時代に適合した行事への組み直し、再整備を進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 安全への取り組み、誠実な対応など

生徒の安全を守ることは教育活動以前の責任であると考えております。継続して高い評価を頂戴しておりますが、今後も取り組みを徹底します。一方で、「保護者や地域からの要望・意見への誠実対応」では2年連続で評価が下がりました。原因の究明を急ぐとともに、有効な改善策を講じていきます。また、学校からの情報発信についても評価に後退があり、教職員で問題意識を共有しました。学校の様子や指導に込めた思いなどをしっかり伝える体制を整えます。

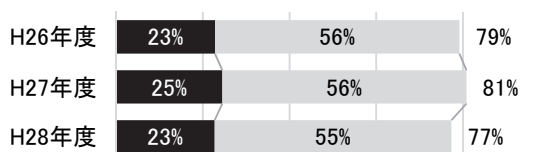
Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分ですか。



Q 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。



Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



## 学校の様子を伝え、家庭の会話を促す

保護者会やクラス懇談会で取り上げて欲しいこととして「進路や入試に関する情報」を保護者の7割以上が挙げており、他の選択肢を大きく引き離す状態が続いています。また、「進路希望や将来の職業、あるいは学校での様子などについて、家庭で話をすることはありますか」という問いに対し、「話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる」との回答は47%にとどまり、「子どもが自分から話をする機会は少ないが、保護者としては関心がある」が24%を占めています。

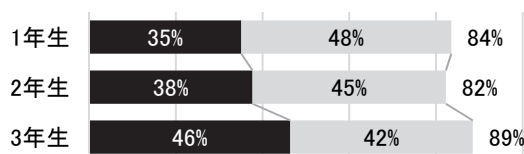
ご家庭での会話は、生徒が自分の将来に向き合うにあたり、視野と見聞を広げるとともに、異なる意見に触れて自分の考えを相対化する貴重な「成長の機会」でもあります。時期に応じた適切な情報を発信し、ご家庭での会話の機会を作ることに、学校として積極的に関わっていきたくと考えております。まずは、連絡文書や懇談会、学校ホームページの充実を通じて、「学校の様子が十分に知れる」との評価をいただけるよう、学校広報の充実を推し進めます。

また、育友会活動へのご理解も、あまり進んでおりません。「たいへん関心があり、内容もわかっている」は8%に過ぎず、「関心はあるが、内容についてよくわからないことが多い」が回答の34%を占めています。ここ数年、育友会へのご協力を仰ぐべく活動内容の周知に力を注いできましたが、効果は十分とは言えません。保護者向けの広報の在り方、教職員側での育友会への関わり方について検討していきます。

## 好ましい資質・姿勢の獲得に向けて

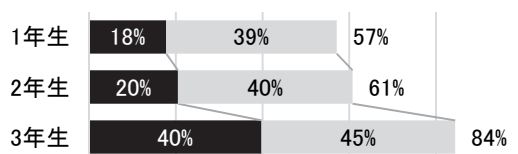
学校評価アンケートでは、「生活習慣」「行動選択」「共存資質」「自律学習」という4つの観点で、保護者の目を通して観た生徒の成長ぶりをお尋ねしています。いずれの項目でも、学年が上がるにつれて肯定的な回答が占める割合が着実に増えており、大高生は日々の生活の中で着実に成長を遂げてきているようです。項目別には、生活習慣と共存資質が1年生のうちから高い評価を得ており卒業までには十分な水準に達する一方で、行動選択と自律学習の2つは、スタートでの低さと伸び始めの遅さが顕著です。いかに早く成長カーブに乗せるか今後の課題です。

Q 保護者の目から見てお子様は、高校生にふさわしい規律ある生活を送れるようになりましたか。



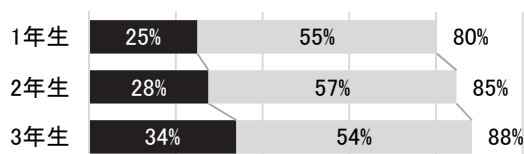
昨年度とほぼ同じ水準であり、3年生は90%に近いところまで来ています。しかしながら、依然として、「どちらかと言えば」という但し書きが付く消極的な肯定も多く、改善の余地は大きく残っていると考えざるを得ません。指導や管理を強めるだけでは、生徒が自ら考えて自分を律する姿勢を獲得できません。生徒自身が自分の生活を客観的に振り返るとともに、集団生活の中で守るべきマナー、自分を成長させるための行動様式を考えさせていく指導の充実に解決策を求めたいと思います。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



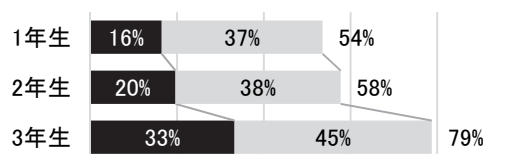
学校全体では、昨年度と同じ67%の肯定率にとどまり、改善したとは言いがたい状況です。1年生、2年生では肯定率が6割前後に止まる現実に、反省の必要を引き続き感じております。また、急上昇を見せる3年生でも、それまでの立ち遅れから十分な準備を行えないまま選択に臨ませてしまった可能性も疑われます。「自分の将来」とは高校を卒業した後の進路のことに限定されません。進路選択は様々なステップを経て行うものであり、3か月後、半年後、1年後と連続して控えている小さな選択にきちんと向き合せて準備を整えて臨ませるような指導が求められていると考えております。進路指導計画や、面談指導などを中心に、多角的な視野で指導の見直しを図ります。

Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



“あったかい学校”を構成する一員として、多くの生徒が好適な資質を早いうちから身につけていることを誇らしく感じます。立場の異なる相手の意見に耳を傾け、発想や視野を広げたり、協働の接点を探ったりする力は、これからの社会を生き抜くために欠かせないものです。日々の学習、課外活動などあらゆる機会を通じ、協働性、多様性、主体性をこれまで以上に育んでいける学校を目指します。

Q お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



進路希望が具体化し、実現に向けた努力が本格化する3年生は8割近くが相応の努力を見せてくれていますが、1年生と2年生の取り組みには、いまだ大きく改善の余地が残っています。一層の改善を図る必要があります。日々の学習の中に達成感が得られるような課題を設けたり、タスクマネジメントのトレーニング機会を設けたりすることを軸に改善を進めて参りましたが、十分な成果を得ていないことを真摯に受け止め、改めて効果的な指導の実現に取り組みます。過日実施した生徒による授業評価アンケートの集計結果に基づき、学習における自分なりの目標や課題というのは「解消したい不明、解き明かしたい疑問」であるとの仮説を立てました。一つひとつ丁寧に教えることと並行して、適切な課題を与えて生徒が自らあるいは協働で解決に挑む機会を備えた授業デザインへの転換を図って参ります。また、オリエンテーション学習合宿から始まる一連の指導を効果的に連動させ、個々の効果を長期に持続させることに、これまで以上の力を注ぐ所存です。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 副校長 岡本進